

常電圧放射線発生装置を用いて治療した 口腔内悪性黒色腫の犬の17症例

田川道人^{1),2)†} 新坊弦也³⁾ 富張瑞樹⁴⁾ 宮原和郎¹⁾

- 1) 帯広畜産大学動物医療センター (〒080-8555 帯広市稲田町西2線11)
- 2) 岡山理科大学獣医学部獣医保健看護学科 (〒794-8555 今治市いこいの丘1-3)
- 3) 北海道大学動物病院 (〒060-0818 札幌市北区北18条西9)
- 4) 大阪公立大学獣医学部獣医学科 (〒598-8531 泉佐野市りんくう往来北1-58)

(2022年9月8日受付・2022年12月2日受理・2023年3月29日公開)



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/3/76_e55/_article/-char/ja

要 約

常電圧放射線発生装置(オルソボルテージ)を用いて治療した口腔内悪性黒色腫の犬の17症例について回顧的研究を行った。治療プロトコルは1回8Gyを週1回、4週間とし総線量32Gyとした。肉眼病変に対する治療反応は73.3%で認められ、無進行期間及び生存期間中央値はそれぞれ126日、241日であった。ステージ別の生存期間はステージIが中央値に達せず、IIが258日、IIIが80.5日、IVが115日であり、診断時転移の有無(あり71日、なし303日)、外科切除の有無(あり582日、なし164日)、治療反応(CR 438日、それ以外154.5日)が有意に生存期間と関連していた。放射線障害はほぼ全例で認められたものの、多くは軽度であり、犬の口腔内悪性腫瘍に対する常電圧放射線治療は有用な治療オプションになりうると思われた。——キーワード:犬, 悪性黒色腫, オルソボルテージ, 放射線治療。

-----日獣会誌 76, e55~e61 (2023)